

第15回政府現地対策本部会議・第18回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月24日(日) 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

被害多数。(資料参照)

避難者数等は資料のとおり。避難者数6万人。熊本市4万人弱。

3 県等の対応状況

(総務部)

被災市町村への人的支援状況については資料のとおり。引き続き各団体のニーズを踏まえた支援を行う。

(企画振興部)

鉄道関係で、JR九州の肥薩線八代～吉松間が通常運行。航空機関係で阿蘇くまもと空港発着が54便運航。

被害情報は別添資料のとおり。

(健康福祉部)

保健師チームを1班増やし、68班体制。DPATの要請は25チーム。仮設住宅への対応は、全国都道府県に対し公営住宅の一時避難先の供与、旅館等を活用した受入支援の情報提供を依頼。感染症対策として、避難所での予防、啓発並びに消毒用品を調達中。4月22日(金)に嘔吐下痢症状の報告あり、22名のうち1名についてノロウイルス陽性を確認。22日をピークに現時点で有症者無し。今後も消毒等を徹底。報道資料「熊本地震に伴う被災者に向けての民間賃貸住宅の情報提供」開始。自己の資力で住宅を確保できない人に限り相談を受ける。

(環境生活部)

益城町は1万戸断水、明日から一部通水予定。宇土、宇城(松橋地区)、が断水解消。熊本市城山配水区の計画断水は解除。

(農林水産部)

阿蘇市(阿蘇谷)、西原村で広範囲に地割れや段差が発生し営農できない状態。白川で濁水状態にあり、河口域で赤土浮泥が広範囲に堆積。その一部の範囲でアサリ、シオフキ貝の壊死や衰弱を確認。現地調査を引き続き実施するとともに、応急対応について検討中。

(県警本部)

南阿蘇の土砂崩れ現場で行方不明者の捜索にあたっているが、現時点で発見に至っていない。

#### 4 国等の対応状況

(自衛隊)

生活支援活動を行っているが、給食、給水活動は減少傾向にある。

(気象庁)

地震については増減を繰り返しながら、推移している状況で活発に活動している。今後も引き続き強い揺れには注意が必要。

(JR九州)

九州新幹線の脱線車両の撤去完了。今後早期復旧に向けて頑張りたい。

(西部ガス)

都市ガスについて、低圧の復旧状況は約10万戸のうち約2万4千戸が復旧しており、復旧率は23.9%。

#### 4 現地対策本部長の発言

(酒井政務官)

昨日、総理が入り、今日の記者会見でもご承知だと思うが、補正予算の関係で被災者支援、インフラの復旧、経済再建これを中心に今国会中に予算を通したいというお願いをしていきたいと発言があった。そういう中で私たちも、それに向けて皆さんにお願いをしていきたいと思っている。

そういう中で、まずは、ノロウイルスが南阿蘇で起こったが、大きなことになっていないということで、ありがたいと思っているが、ただ、これは、南阿蘇に限らず全ての地域で起こりうる。もちろん、トイレ等の衛生管理も必要だが、壊れた家の中には、冷蔵庫等に生ものがそのまま残っているところもあると思う。雨などで腐ってくる。そのことも頭に入れておく必要がある。

益城町の水道も順調に回復しているということなので、それぞれのところで順番にやってくれており感謝している。

今日は、宇土市に視察に行った。庁舎が完全に潰れた状態で行政の機能は全く動いていないと言っても過言ではない。それぞれの部署が、机を二つ並べたところが、例えば健康福祉部の部署、そういう形の仕事をしている。パソコンも6台使ってやっている状態。大変な状態だと思っている。

今日、南阿蘇村に桜庭局長に行って頂いたので、状況を報告願いたい。

(農林水産省 桜庭局長)

主として、食料、生活物資の状況を中心に拝見させていただいた。

役場に行ったところ、総務省、東京都、大分県等の各県の支援チームが班を立ち上げて、これから本格的に支援作業が始まるころだった。

食料については、足りているということだった。

南阿蘇中学校の避難所は、ノロウイルスの関係もあり、しっかりと消毒、管理がされていた。気になったのは、荷物の受入をストップさせているということだったが、在庫管理でストックさせているところと避難所間の横持ちをどうするかということで悩んでいる様子だった。また、ニーズのミスマッチもあった。水が豊富な所で、水が非常に山

ほどあった。高齢者が多くて、飲み物は2リットルでなく500ミリリットルがいいという意見もあった。きめ細かな対応が必要と思った。

(酒井政務官)

ここにいらっしゃる方は、一生懸命頑張っていらっしゃるが、統括して指示していく状況がないのかなと感じた。ヘッドがいてコミュニケーションを徹底的にやるぞというのができていないのかという気がした。国としてももっとバックアップしないといけないと思っている。そういう意味では、人の支援が重要である。

兵谷審議官に指示をしているので、その辺のところの話をお願いしたい。

(内閣府 兵谷審議官)

国としては、被災市町村にリエゾンを始めとして派遣している。県のリエゾンとタイアップして一緒にニーズ調査を実施している。同時に、今後は、フェーズがみなし仮設とか、仮設住宅といった住まいの確保、下水道等のインフラといった復旧、復興に移って参るので、そういうところについても、県と連携しながら、事務職員だけでなく技術職員も含めて確保して支援していきたい。

(酒井政務官)

警察、女性警官の方々がそれぞれの所を回っていただいて、要望を聞いて頂いて、そのまとめが出てきている。それを生かしながら、皆さんに使っていただきたい。

不明者が2人いて、自衛隊や消防の方々がご努力をされているが、早く見つかるのであればありがたいが、じゃないと長期になるので、そのご苦労には敬意を表するが、よろしくをお願いしたい。

気象庁から話があったように、まだ予断を許さないという状況なので引き続きご尽力をお願いしたい。

## 5 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索が続いておりますが、依然として2名の方の所在がわからないまま、発災から10日を迎えた。一刻も早い救助を心から願っている。

避難所生活も長期化に伴い、エコノミークラス症候群やノロウイルスの発生など、健康面、衛生面、さらには、心のやすらぎなどのメンタル面のケアが重要となっている。今現場で何が必要なのか、被災者の方々の立場になって考え、現場と本部の連携を密にしながら、生活支援に精一杯努めていただきたいと思います。

昨日、安部首相に現地を視察いただいた。そして、明日25日には、今回の地震を激甚災害に指定していただけるというコメントをお聞きし、大変心強く思っている。

また、交通面では、九州の交通の屋台骨ともいえる九州自動車道が、今月中には全面復旧できる見通しという明るいニュースも入ってきた。復旧・復興に向け、大きく前進できると感じている。

災害現場の皆さんは、夜を徹しての捜索活動で、疲労が極限状態に達していることと

思う。その他の皆さんも、被災者の方の治療やケア、支援物資の調達・配送などで相当お疲れのことと思うが、一日も早い復旧・復興を目指して、お互いに励まし合い、「チームくまもと」として一緒に頑張っていきましょう。

## 6 小野副知事の発言

メディアの方に2点お願いしたい。

報道が過熱しているという問題。自治体職員も同時に被災者の方がいる。そういう中で、住民としてメディアからのインタビューを受け、その時の質問の内容が、今うまくいっていないことの根掘り葉掘りの報道が、過剰な報道に繋がっているところがあるのではないかという声がある。実際、どういう状況なのか、こういう質問を被災者にすることが適切なか確認しながら業務にあたっただけであればありがたい。

もう一つは、益城町で顕著であるが、タクシーを貸切で取材にのぞまれている方がいらっしゃる。交通手段のないお年寄りの方々が、病院や用事に使えない状況がある。余所から来られる皆さんは、自己完結が原則だと思っているので、ご配慮をお願いしたい。

(以 上)